植物と語る空間

収穫イベントを開催する
「渡辺果樹園」 代表
渡辺 康弘さん

文=斎藤慎一郎　写真=鈴木新作

「少しでも多くの人に自然と触れあってもらいたい。イベントはその手段です」

わたなべ・やすひろ●1964年6月25日生まれ。三条市出身。高校卒業後、農業大学校に進み、卒業後、家業を継ぐ。三条地区の農業後継者の集「ぐっつり」の会長を務めた。趣味は旅行。学生時代に九州を1人で歩いたことも。

収穫の秋。農作業の締めくくりの季節。渡辺さんには収穫と同じくらいの楽しみが1つある。「最近はイベントを目当てにいらっしゃるお客さんもいるんですよ」。

渡辺さんが経営する「natureifarm渡辺果樹園」では5年前から初夏と秋の2回、イベントを開催している。今秋のイベントは9月19日、ブドウ棚の下でフラメンコのコンサートを行う。音楽を聞きながら、大勢で料理を楽しむ。

「初夏はフルートのコンサートなどおとなしい感じのイベント。秋は収穫祭ですからにぎやかなものがいいと思っています」。渡辺果樹園では初夏に「ブドウの房作り体験」を行っている。一般の人たちにブドウの房を整えてもらう。それを秋に収穫する。イベントはその流れの中にある。

「何かを企画して人を集めることが好きだった。社会人になりたてのころ、同年代の農業後継者とともに、クラブイベントや展示会を開いた。そのエネルギーは家業にもつながった。「自分が整えたブドウを秋に自分の手で収穫する。一般の人たちに自然からもらえる喜びを感じていただきたいんです」。根底にあるのは純粋な思い。

高校生のころまでは人と接することが苦手だった。「今、派手にやろうとしているのはその反動ですよ」と苦笑いする。家業を継いだ当初、化学肥料を使った最新の栽培方法を研究した。できたブドウを口にした瞬間、違和感に襲われた。「これは食べ物じゃない」。同時に「自分には本物を判断する感覚がある」と実感した。

だからこそ自然がつくる本物、自然そのもののよさを多くの人に感じてもらいたいと強く思う。「誰もが植物と会話できるような果樹園を作りたい。究極の夢なんですけどね」。その夢の実現を疑ったことはない。

「ブドウ棚の下のフラメンコチャリティーコンサート」

渡辺果樹園の特設会場で行われる今秋の収穫感謝イベント。フラメンコを観賞しながら、スペイン料理や地酒を楽しむ。昼の部では「新潟相撲甚句」が披露される。即売会も催される予定。●日時／9月19日(日)12時～19時30分　昼の部:「新潟相撲甚句」14時～15時、夜の部:「フラメンコ」17時30分～19時●料金／昼の部:入場無料、夜の部:大人3,000円(ブドウのお土産付き)、小学生以下無料※料理は別途料金●会場・問い合わせ／三条市井戸場143渡辺果樹園　0256・34・5470